

昔、浦島太郎という漁師がいました。

太郎は、砂浜でいじめられていたカメを助けたお礼に、海の中の竜宮城に連れて行ってもらいました。

夢のような暮らしが長く続き、帰りに玉手箱をもらいました。

砂浜に戻ると、親も友達も誰もいません。玉手箱を開けると、浦島太郎はおじいさんになった、と言うお話でした。

今から話すのは、浦島太郎とは別の人の「うらしまじろう」のお話です。

ある日、砂浜を歩いていたらうらしまじろうは、泣いているカメを見つけてきました。

「どーしたんですか？」

うらしまじろうはカメに言いました。

②浦島太郎が竜宮城に行った絵の裏

カメは言いました。

「手に釣り糸がからまってとれなくなっただのです」。

うらしまじろうは、カメに絡まっていた釣り糸を

とって、包帯を巻いてあげました。

カメは、お礼を言って、海に帰っていきました。

それから何日かたつて、うらしまじろうは、またカ
メが砂浜で泣いているのを見つけました。

「今度はどうしたんですか？」

カメは言いました。

「食べたクラゲがのどにひっかかって取れないんで
す」。

よく見ると、カメの喉にひっかかっていたのは、小
さな赤いくしでした。

うらしまじろうがそれを取ってあげると、カメはお
礼を言つて、海に帰っていきました。

そんなことが続いたある日、うらしまじろうは村人たちを集めて、言いました。

「この中にカメを傷つけたものがおる。」
村人たちは顔を見合わせて、言いました。

「私はカメを傷つけてなんかいませんよ。三郎さんじゃないですか？」

「いえ、私もそんなことはしませんよ。四郎さんじゃないですか？」

「いえいえ、とんでもない。五郎さんじゃないですか？」

そして、最後に、村人たちは口をそろえて、こう言いました。

「いったい誰がそんなことをしたんですか？」

うらしまじろうは、みんなのことをじっと見^みつめて
言^いいました。

「カメ^{かめ}を傷^{きず}つけていたのは、わしたちみんなじゃ」。

⑥じろうが村人を集めた絵の裏

うらしまじろうは傷つ^{きず}いたカメ^{かめ}のことをみんなに話^{はな}しました。

村人^{むらびと}たちはそれぞれ思^{おも}い当^あたるところがありません^た。

⑦じろうが村人に対して話す絵の裏

その日の夜、村人たちは夜遅くまでカメラを傷つけないようにするにはどうしたらいいか話し合いました。

「釣りをしたら、ちゃんとあと片付けをして帰ろう」。

「みんなで浜辺のゴミ拾いをしよう」。

「川辺に住んでいる、となり村の人たちにも、川にゴミを捨てないように協力してもらおう。川は海につながっているからね」。

村人からはいろいろな意見が出ました。

次の日から、村人たちは話し合ったことを少しずつ行っていました。

すると、しばらくして、村の砂浜では、泣いているカメラをみることはなくなりました。

お礼れいにうらしまじろうや村人むらびとたちが竜宮城りゅうきゆうじょうに招かれ
たかはわかりません。
もし、招まねかれていたとしたら、海うみの中なかは大騒おおさわぎだつ
たかも知しれません。
おしまい。

⑨村人が海を汚さないように考えた絵の裏

今日はみんなの大好きな紙芝居を読みます。

「うらしまじろう」というお話です。

みんな、浦島太郎のお話は知っているかな？

なんと、うらしまじろうと浦島太郎は別の人なんです。

まずは、浦島太郎のお話を振り返りましょう。